ハンドボールのゴールキーパーにおけるポストシュート時の阻止動作とシュート阻止率の関係性

伊藤　航（岐阜大学）

１．目的

本研究では、日本の社会人チーム・実業団の試合を対象にゴールキーパー（以下、G.K.）の位置の取り方を明らかにし、シュート阻止率にどのような影響があるのかを明らかにすることを目的とした。

２．研究方法

１）研究対象:2019 年・2020 年度日本ハンドボール選手権大会、男子・女子の部　計 28 試合

２）調査方法:セットオフェンスにおいてポストシュートまでつながった場面を抽出し、パサー、ポストプレーヤー（以下、PV）、G.K.の運動経過について観察を行った。パサーが PV へパスをしてから PV がボール保持までを第 1 局面、PV がボール保持後、シュート時までを第 2 局面、シュート結果を第 3 局面とし、局面ごとに PV の動きや G.K.の詰め、位置取りの項目を設定し、観察を行った。

３）分析方法:独立性の検定を用い、有意な差が出たデータにおいてさらに残差分析によって有意差を調べた。

３．結果と考察

表 1 より、男子は前に詰め、「その場」「シュート時 1 歩前」のキーピングで高い阻止率を示した。また、表 2 より、女子は詰めを行わない「その場」での「その場」「シュート時 1 歩前」のキーピングで高い阻止率を示した。

これらのことより、男子は前に詰め、シュートコースを制限すること、女子は詰めを行わないその場でシュートを見極めることが多くみられ、それらがシュート阻止に影響を与えるものと考えられる。

また、キーピングの仕方の高い割合を示した項目が男女共通していることから、男女ともにシューターに対して静止した状態でキーピングを行うことが阻止率に影響を与えるものと考えられる.

表1.　『G.K.の詰め」と『G.K.のキーピングの仕方」に着目した『シュート結果』の出現率（男子）

	阻止失敗	阻止成功	n
前へ　ー　その場（ずれあり）	100.0%	0.0%	2
前へ　ー　その場（ずれなし）	61.9%	38.1%	21
前へ　ー　ー歩前	61.8%	38.2%	34
前へ　ー　詰めながら（ずれあり）	100.0%	0.0%	5
前へ　ー　詰めながら（ずれなし）	67.6%	32.4%	37
その場　ー　その場（ずれあり）	100.0%	0.0%	1
その場　ー　その場（ずれなし）	91.7%	8.3%	12
その場　ー　ー歩前	50.0%	50.0%	4
前へ（ずれあり）　ー　その場（ずれなし）	100.0%	0.0%	1
前へ（ずれあり）　ー　ー歩前	100.0%	0.0%	1
前へ（ずれあり）　ー　詰めながら（ずれなし）	100.0%	0.0%	5
全体	70.7%	29.3%	123

P値＝0.2940

表2.　『G.K.の詰め」と『G.K.のキーピングの仕方」に着目した『シュート結果』の出現率（女子）

	阻止失敗	阻止成功	n
前へ　ー　その場（ずれあり）	100.0%	0.0%	4
前へ　ー　その場（ずれなし）	68.4%	31.6%	19
前へ　ー　ー歩前	70.0%	30.0%	20
前へ　ー　詰めながら（ずれあり）	100.0%	0.0%	3
前へ　ー　詰めながら（ずれなし）	100.0%	0.0%	5
その場　ー　その場（ずれあり）	100.0%	0.0%	3
その場　ー　その場（ずれなし）	65.4%	34.6%	26
その場　ー　ー歩前	65.2%	34.8%	23
前へ（ずれあり）　ー　その場（ずれなし）	100.0%	0.0%	1
前へ（ずれあり）　ー　ー歩前	100.0%	0.0%	2
全体	72.6%	27.4%	106

P値＝0.4996

４．結論

本研究では、男女の G.K.の体格の差や、シューターのシュート力の差から、それぞれに合った詰めを行うことがシュート阻止につながると考えられる。また、キーピングの仕方では、タイミングのずれなく早く位置取りを行い、シューターに対して静止した状態でキーピングを行うことが必要であると推測される。